

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（四日市中央工業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○校訓「誠実 努力 親切」及び「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、学習者の視点に立って、安全で安心な教育環境を全教職員が一丸となって構築し、生徒・保護者・地域の方々に信頼される工業高校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣が確立し、基礎学力やコミュニケーション能力の定着が図られ、将来のグローバル社会においても対応できる実践能力や課題解決力を備えている。
	ありたい 教職員像	○企業が望む人材を育てるため、教員自らが、たゆみなく授業力の向上に努力できる。 ○協働による取組により組織力を高めることができる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 分かりやすく丁寧な指導を望み、社会で役立つ知識や技術を身につけたい。</p> <p>&lt;保護者&gt; 生徒が希望する進路実現が果たせるよう、しっかりと指導してほしい。</p> <p>&lt;企業・大学&gt; 基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力やコミュニケーション力を持ち、社会人として組織の中で、明るく元気に能力を発揮出来る力を身につけてきてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭&gt; 安全で安心な教育環境のもと、生徒の能力を伸ばして欲しい。</p> <p>&lt;企業・大学&gt; 挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を確立させるとともに、明るく元気で組織の中で能力を発揮できる人材が欲しい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 生徒の地域社会における規律遵守と地域行事への参加等協力が欲しい。</p>	<p>&lt;家庭&gt; 学校の教育方針への理解と協力、及び躰等での家庭の立場で学校を応援してほしい。</p> <p>&lt;企業・大学&gt; 継続的な受け入れをして欲しい。技術指導等外部教育の面で協力して欲しい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域が学校と手を携え、一緒に子どもたちを育てて欲しい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○生徒は、全体的に落ち着いており生徒指導上も一定規律の遵守が確保されている。</p> <p>○学力向上に向けた取組やキャリア教育の系統的な取組が可能になっている。</p> <p>○進路保障についても、就職や進学ともに順調である。等、一定の評価を受けた。</p> <p>○一方、今年度本校への入学希望者数は、満足できない結果が出ており、この原因として社会の不透明さ、先行きの不安定さからくる要因により、社会に関心が持てず、夢や希望もなく、やりたいことが具体的に見えてこない子どもたちが増えつつあることなどが考えられることを認識したうえで、このような中で、工業高校を卒業して地元に残り、地元のために働くことがいかに大切であり重要な社会貢献であるかということ子どもたちやその保護者に十分理解してもらうことや、工業高校を抛り所としてくれるような、魅力ある学校づくりを行う必要があるなど課題がある。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>授業規律の確立が進んできたが、引き続き、より一層の充実に向け、生徒が主体的に授業に臨むような授業の展開を行うことが課題である。</p> <p>主体的な学びやコミュニケーション力を養うと同時に、生徒一人ひとりが基礎学力を向上させることが必要となっている。</p>	

学校 運営等	部活動の活発な学校として中学校や地域、企業からの評価は高い。工業高校生として専門分野に精通し、グローバル化等の社会変化に対応できる力を身につけるとともに、部活動をとおして磨かれる強い精神力と身体を兼ねそなえた職業人を育成するため、組織力向上の取組を充実させる必要がある。 過重労働気味の教職員も多く、さらに業務の効率化が必要である。
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の基本的な生活習慣を確立し、挨拶や時間の遵守など社会生活での対応力を育てます。</li> <li>低学年次からのキャリア教育に取り組み、生徒に組織や社会における対応力、コミュニケーション力を身につけさせ第1志望の合格内定者増を目指します。</li> <li>温かい人間関係づくりや仲間づくりの取組をとおして、他人を思いやり、痛みの分かる生徒を育て、尊い命を大切にすることを育む教育の取組をめざします。</li> <li>新学習指導要領が告示され、また、高校の学力確認テストの試行実施もまじかに控えたなか、主体的な学びに対応したカリキュラム改善を検討します。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に提供する授業内容を工夫改善し、学力向上に繋げるため、小グループによる授業公開等を行い、教員の授業力向上を図る取組を行います。</li> <li>学校活性化のための取組を進める上で、全職員が学校の課題を共有し、県立高等学校活性化計画を踏まえて多様な教育課題へ組織的、協働的に取り組むことができる集団づくりを進めます。</li> <li>教職員が、仕事を助け合い、また、意欲的に業務に取り組めるよう、組織の目的を共有する対話の場をつくり、教育活動全般の刷新と業務内容のスリム化や課外活動の指導の工夫等により、総勤務時間の縮減を図ります。中でも、月80時間を超える過重労働教職員を段階的に減少させ、平成33年度4月までにほぼ0人とするよう取り組みます。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にしま

す。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にしま

す。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路マップの成果検証に取り組みます。</li> <li>新指導要領を踏まえて、生徒が主体的、効果的に学べるカリキュラムを検討します。</li> </ul> <p>【活動指標】2回の進路マップの実施 新学習指導要領にかかるカリキュラム検討の実施</p> <p>【成果指標】2回目の進路マップD3判定の生徒数が1回目の生徒D3生徒数の50% 年度末調査における、新学習指導要領にかかる授業改善にかかる教職員の関心度70%</p>	<p>朝トレ計35回実施</p> <p>2回目の進路マップでD3生徒は25%減にとどまる。</p> <p>カリキュラム検討は改革委員会で学級減にかかることに付随させて検討2回実施し、関心度は達成</p>	※
キャリア教育の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年次からキャリア教育に取り組み、組織の中での対応力やコミュニケーション力を養います。</li> </ul> <p>【活動指標】多様な進路ガイダンス等の実施</p> <p>【成果指標】生徒の進路実現に対する満足度90%</p>	<p>就職希望者の就職内定率100%で成果指標を達成</p>	◎
生徒指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車通学マナーの向上と交通事故減少を年間通して取り組みます。</li> <li>廊下等での「ながらスマホ」対策に取り組みます。</li> </ul>	<p>自転車事故は27件で昨年度の71%</p> <p>ながらスマホは、改善</p>	

	<b>【活動指標】</b> 日常の指導に加えて強化取組を実施 <b>【成果指標】</b> 年間通学時の交通事故発生件数 前年度比70% 2月期、廊下での注意回数 0回	ならず、課題継続	
人権教育の充実	・人権感覚豊かな学校環境づくりと仲間づくりを進め、命を大切にすることを育む教育の取組を行います。 <b>【活動指標】</b> 人権講演会、人権LHR、県の研究事業、中央祭や保健部行事等の学校行事の活用 <b>【成果指標】</b> 年度末調査における教職員によるプラス評価90%	部落差別にかかる人権HRの実施、命を大切にす及びいじめ撲滅にかかる講話催中央祭でピンクシャツ運動等を実施し、成果指標達成	

### 改善課題

#### (1) 学習の充実

- 1、2学期は3学年全体で、3学期は1、2年生で朝トレを実施し、基礎学力の定着に努めた。実施して数年経過し、昨年度リニューアル。今年度2年目である。概ね良好である。
- 新学習指導要領が告示され、新しいカリキュラムを検討することが必要であるが、今年度は、次年度以降の学級減対応と絡めて検討会を実施、次年度にカリキュラム改善について検討する方向性である。

#### (2) キャリア教育の充実

- 別添資料のキャリア教育計画のもと、1年生から順次、講話、卒業生からのアドバイス、インターンシップ、企業セミナー等を計画的に実施し、個々の生徒の自己像を高めている。今後もこの計画をマイナーチェンジしながら継続してキャリア教育を実践していく。

#### (3) 生徒指導の充実

- 自転車通学での事故は、特に1学期に多く、今年も数件発生した。集会等での生徒指導からの講話や各学期の朝の登校指導等での注意喚起を行ってきた。生徒の命に係わる問題であり、継続したより実効性のある指導を考えていきたい。
- 本校では、学内でのスマートホンの使用を許可しているが、使用時間などにルールがないため、いわゆる「ながらスマホ」等のマナーの問題が顕著である。引き続き次年度の課題としたい。

#### (4) 人権教育の充実

- 本年度は、県の事業を受け、テーマを「部落問題」に絞った人権LHRを担当教員が実践し、他校からの教員を合わせ30名程度の授業参観者による研究協議を行った。これを学内人権教育に生かしていきたい。
- 命を大切にす教育、いじめ撲滅運動については、登校指導、集会での講話、外部の講師を招いての人権講演会、LGBT講話等で実践、また、いじめ防止運動については、文化祭でもPTAによるピンクシャツ運動、ピンクシャツを着用しての生徒会による朝のあいさつ運動などで啓発できた。

#### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	・県立高等学校活性化計画を踏まえ、学級減を見据えた対応の協議を進めるとともに、全国総体など役割が増える中、教職員の協働による取組と課外活動の指導の工夫等により総勤務時間の縮減を図る。	(1) 年間2回実施 (2) 守れている (3) 土日を休めていない 部活動が多い。	

	<p><b>【活動指標】</b></p> <p>(1) 学級減を見据えた学校活性化に向けた検討会の実施 2回</p> <p>(2) 定時退校日の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則毎週月曜日を定時退校日とし、原則日に実施できない場合は別の日に週1日以上設ける。</li> </ul> <p>(3) 部活動休養日の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三重県部活動ガイドライン」に従い、原則、土日のどちらかを部活動休養日とする。土日に実施できない場合は別の日に1日の休養日を設ける。</li> </ul> <p>(4) 会議時間の短縮と会議数の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の会議時間は60分以内を目途とする。</li> </ul> <p>(5) 各教職員が年間休暇取得日数の前年度比1日増</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○月時間外労働時間前年度比10%減</li> <li>○総勤務時間の平成28年度対比3%縮減</li> <li>○年度末調査における、学級減にかかる対応の教職員の関心度70%</li> <li>○月80時間以上の過重労働教職員の延べ人数が前年度比70%</li> </ul>	<p>(4) ほぼ100%達成</p> <p>(5) 時間外労働時間は増加、過重労働者の延べ人数も増加している。</p> <p>成果指標の中で、月時間外労働時間、総勤務時間、過重労働者数ともに達成できていない。</p> <p>次年度も継続して取り組む。</p>	
<p>チームワークの向上、意欲の増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四中工の未来を語る会等を始め、職員による交流会を開催し、今後の学校の特色化の推進を図ります。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b> 年1回の実施</p> <p><b>【成果指標】</b> 参加職員の満足度70%</p>	<p>学級減にかかる検討委員会でも意見交換及び12月3日に未来を語る会を実施した。成果指標は達成</p>	
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業高校としてのものづくり教育を充実させ、その成果や教育活動の内容を地域へ積極的に発信し、学校に対する理解を深め、地域との結びつきを充実させます。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b> 年5回の発信活動</p>	<p>学校全体、各学科、部活動を通して地域の方、中学生等との連携事業を5回以上行いました。</p>	
<p><b>改善課題</b></p>			
<p>(1) 組織運営</p> <p>全国レベルの部活動顧問が過重労働者として固定している現状がある。そういった部活動は、年中繁忙期であり、土日祝日には、公式試合が続くので、時間外労働を減少させにくい現状がある。その該当教員に対しては、主に休暇取得の促進指導をし、総勤務時間の維持に努め、総勤務時間を減少させていくしか手立てがなく、抜本的な総勤務時間縮減にはつながっていないのが課題である。</p> <p>(2) チームワークの向上、意欲の増進</p> <p>学級減にかかる対応のための改革委員会を2回、未来を語る会を1回実施した。中学校卒業生の急減にはどの学校も対応に苦慮しているが、特に当校は、部活動が活発でその顧問数が必要であるが、学級減となることで人員が削減されることが予想され、その対応が課題である。</p> <p>(3) 地域との連携</p> <p>三滝中学校2年生への体験講座開講(全学科)、神前地区夏季化学講座(化学工学科)、地域清掃活動、こどもの城とのコラボ事業(電気科)、建築業者依頼の木工製品製作(都市工学科)、将棋部高齢者講</p>			

座、水球部の桜小学校での水泳指導、その他部活動で地域交流等を通して、四中工の生徒、学校の実態を知ってもらえつつある。今後も積極的に活動することが求められている。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	教育活動全体としては、進路実績や部活動指導、人権教育、地域との連携等、成果を上げており、概ね評価していただいた。課題としては、さらに原理原則、基礎基本を皆に定着させること、および、座学と実習との関係性を重視するとより系統的な授業体制が構築できる等の授業改善に関する事、さまざまな企業を見学をさせ、現実的な将来像を考えさせる機会が必要であること等のキャリア教育取組に関する事、自転車運転、スマホ等の問題を学校内だけでなく保護者を交えて検討する必要性や実習授業での事故防止を含めた「安全」教育の徹底に関する事、さらに、社会に出ていくと今よりもコミュニケーション能力や個々の意思表示が求められることが多くなることを前提にした効果的な取組に関して意見をいただき、次年度の改善に向けて検討することとした。
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	基礎・基本の徹底については、朝トレ実践を継続し、1，2年次に判定の悪い生徒が少なくなるよう取り組みます。また、新たに記述式問題を含んだ「基礎診断テスト」を実施し、考える力を判定します。また、2学年で実施するインターンシップに加え、企業見学を実施する学科を増やし、キャリア教育の充実に努めます。 授業では、生徒のグループ活動やプレゼンテーションを充実させ、コミュニケーション能力の向上に努めます。
学校運営についての改善策	生徒の校内でのスマートフォン使用方法について、保護者にも問題意識を共有しながら、生徒が自主的に考え、自ら規制するよう是正に努めます。 総勤務時間縮減の目標が達成されていないことから、貸与コンピュータを使った退勤管理の徹底と定期的な部活動指導時間の注意喚起を実施する等の取組を実施したい。